

～シナリオのない防火総合訓練を実施しました～

七尾病院は、4つの病棟があり、当然ながらスプリンクラーが装備されており一見万全に思えますが、万が一大地震でスプリンクラーの配管が破損して本来の機能を発揮しない場合やスプリンクラーが作動するまでに至らない火災であっても大量の煙によりいち早く避難活動を行わなければならないことも想定されます。このため万が一に備え毎年2回消火・避難を中心とした総合訓練を実施してきております。

訓練は、出来るだけ緊迫した環境を作り出すには、時間、場所を伏せて訓練を行うことが一番適していますが、多くの入院患者さんがいる中では混乱を招くだけなので、時間と出火病棟だけ決めて、火災発生場所は院長さえ知らせない、また、訓練参加者にも当日の簡単な状況しかお知らせせず、職員どうしの協力体制や職員個々の自主性にお任せして行うこととしました。この取組だけでも、緊迫した状況が創り出せ、①火災場所に応じ、避難場所の判断、避難経路など適切な行動が出来るか。②情報の伝達が間違いなく伝わるか。など、今まで以上の効果が期待できます。

12月5日訓練当日は小雪が降る中、出火想定時刻5分前に模擬患者10人が集合し、



1分前に病棟入り口に潜み定刻と共に、業者により食堂の火災感知器を暖め発報させ、様態を表示したものをまとった模擬患者が指定された病室前に着きました。

炎は天井まで達し初期消火に失敗し直ぐに避難活動に展開し、模擬患者を順次避難場所まで搬送していきま



【訓練避難開始】

す。しかし、まずは火元から同じフロアで一番遠い場所に一旦平行移動するべきところ避難場所まで階段搬送してしまったため避難要員が足りなくなり模擬患者がその場に長い間待たされた、あるいは、他病棟からの応援者が火元に近い階段を使用したなど本来の避難活動とは違った行動となりましたが、今まで経験した訓練とは全く違い、リーダーを中心とした機敏な行動と大きな声が飛び交いました。この事は訓練終了後、院長講評にあたり賞賛されました。



【訓練階段搬送】

このような取組は地味で一見意味がないと思われがちですが、このような積み重ねは火災に限らず、緊迫した場面に本来望まれる行動が自然に行えるものと考え、今後も危機管理に対し何が出来るか模索していきます。